

慶応二年三月十八日より慶応二年三月廿三日まで

P8310576 right

十八日丑 晴

頼合加養、□郎次来る、水野(良)来る、柳斎稽古に来る、寺山家眷越□銘菓一箇
持来、木村清次郎なるもの紹介頼申聞る、仏蘭等両陸軍□□伝□御用取扱可申旨
周防守殿

御書取御関話番より達し来る、

十九日寅 晴

昨同様頼合(*)新潟白石へ欧品へ壺書書添、差立方留守宅へ頼遣す、坂地御用旅御扶持方
明日相渡旨札差より案内申来る、半は払候積り、内山(孝)来り、蒸菓を贈らる面す

廿日卯 薄陰

昨同様頼合、沢(錦)、石原(□)来る、辞して不面、豊永、原田(昇)初て来り面す、木村(清)初て

P8310576 left

来り面す有骨、正覚稽古に来る会席の設あり

廿一日辰 雨断続

松堅亭(稽古)に来る、本日より出勤 殿、薄晩前退出、藤山稽古に来る、富沢叔母来り

小品持参右兩人へ酒肴を設く、のぶ秀両婢帰り来り、何れも小品持参

廿二日巳 雨意

正覚義、須崎村抱屋敷の義に付来る、山本(長)来り二百円の内百円を返し百円は借用
いたし度旨也

出 殿公退薄晩に近し、旧婢□義病快しとて赤飯を携再度帰り来る

廿三日午 薄晴

出 殿公退薄晩に至る、江連(加藤)より自書を添、割煮品一折贈り来り去月中より病□来月

*□:頼合(たのみあい)八朔(旧八月一日)に贈答する慣習

()内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。【文字判読不可】、■は、文章の
一部に汚れがある、虫食いにより文字が無い等です。